2019 年 11 月 6 日　2020 年 8 月 27 日改訂

雑感

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

産経新聞の記事によれば、今回（2019 年 11 月）の ASEAN の会議では、アメリカの存在感が希薄化し中国が着実に勢力を伸ばしているようだ。南シナ海問題でもアメリカも一応抗議はしたようだが、「行動規範」の策定も中国の意向が反映する気配である。ベトナムとフィリピンが抗議を続けているが、他の国が同調するようでもない。

「中国、南シナ海「行動規範」２１年までの策定強調　米を牽制」『産経新聞』
https://www.sankei.com/world/news/191103/wor1911030027-n1.html
2019.11.3 19:45
「「中国はＡＳＥＡＮ威嚇」　東アジアサミットで米が批判」『産経新聞』
https://www.sankei.com/world/news/191104/wor1911040022-n1.html
2019.11.4 19:26
「ＡＳＥＡＮ、米国への失望広がる　南シナ海情勢に影響も」『産経新聞』
https://www.sankei.com/world/news/191104/wor1911040023-n1.html
2019.11.4 19:52
いずれも 2019 年 11 月 6 日閲覧

この動きが一時的な局面なのか、決定的なものなのか、わたしにはわからないが、後者の可能性もありそうで、そうだとすると残念である。人間の歴史が、策と謀と力と勢で動くもので有れば、別に不思議ではないのかもしれないが。いずれにせよ、私としては折に触れて能力の及ぶ範囲で南シナ海の歴史について欺瞞的な歴史認識を排して実証的解明を続けていきたいと思う。

2016 年 7 月に常設仲裁裁判所が南シナ海比中仲裁判断を発出し、「九段線」の法的正当性を否定すると、中国は ASEAN の南シナ海行動規範策定（COC）に積極的に参加するようになり、南シナ海紛争から東南アジアと中国以外の諸国の経済的・軍事的関与を排除することを目指した。その結果、2019 年 8 月の「COC の交渉草案」第二次案に中国の提案が明記され、上記の同年 11 月の ASEAN 会議でもその提案を強力に主張した。

湯澤武．2020.「ASEAN の地域秩序構想とその実践」『冷戦後の東アジア秩序：秩序形成をめぐる各国の構想』東京：勁草書房．189-191.

Covid 19 の災禍から早々に復活した中国は、外交交渉路線から再び強硬な軍事路線に移行しつつあるようだ。2020 年 8 月、中国とアメリカの対立が激化する中、「環太平洋合同演習（リムパック）」に対抗すべく、中国は 8 月 24 日～29 日にプラタス諸島海域で軍事演習を行い、その一帯の船舶の航行を禁止した。さらに 8 月 26 日朝中国は弾道ミサイルを発射し海南島とパラセル諸島の間の海域に着弾させた。同日、ベトナムは中国の軍事演習に抗議をした。

『産経新聞』の一連の記事を参照。
「中国、南シナ海で軍事訓練　海南島東南部、２４～２９日の航行禁止」
2020.8.23 00:15
https://www.sankei.com/world/news/200823/wor2008230001-n1.html
「中国、南シナ海で大型演習、東沙周辺、米軍と緊張も」2020.8.24 12:20
https://www.sankei.com/world/news/200824/wor2008240013-n1.html
「中国、南シナ海へ弾道ミサイル２発発射」2020.8.27 00:39
https://www.sankei.com/world/news/200827/wor2008270002-n1.html
「越、中国に演習中止要求　南シナ海「主権を侵害」」2020.8.27 08:50
https://www.sankei.com/world/news/200827/wor2008270005-n1.html
「米高官「中国発射のミサイルは４発」　南シナ海に中距離弾」2020.8.27 09:18
https://www.sankei.com/world/news/200827/wor2008270007-n1.html

Covid19 を強権的に押さえ込んだ中国は香港の民主派を排除し、さらに軍事的海洋進出を強力に推進する構えのように見受けられる。